
そして人はいなくなっちゃいました（その１７）

Miyuki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして人はいなくなっちゃいました（その17）

【Nコード】

N2165S

【作者名】

Miyuki

【あらすじ】

聖魔光闇様の発案のリレく小説でございます！今回は17話でえす♪

頑張らせてもらいますー（・・）ー

（前書き）

これは聖魔光闇様の発案リレー小説です。

15話 千島佳華さま

16話 鳩麦さま

17話 私だよ？

7が着いたら、私だよ？♪

しかし…駄作すぎる。

あまり、キツイ目で見ないで…幼い子の作文を見るような目で見てください。

現実…

そう、日常に帰るために…俺は走る。
愛する娘を探すために……
そう言っつて、彼は動き始めた。

その頃――

？「ゲームはまだ始まってなどいない。」

ゲームの主催者がそう言った。

？「まだ終わらない、始まらない。」

歪む主催者。

主催者「これは…そうほんの余興に過ぎない。」

そう、男が言った。闇の中…彼はそう、沙羅と二人きり。

彼は沙羅と一緒にベットに居た、愛し合っていた。無意味な愛だった。

沙羅「ねえ…え？…私はパパを阻止、してあげたのよ？」

沙羅は笑いながら、男を抱き寄せる。

沙羅「私を…私を自由にしてくれない？ゲームは…もう始まるのだから。ね？」

彼女…沙羅は、別人のように話している。

そう、鎖は繋がれたまま…彼女は逃げたくても、逃げられない。

主催者「お前…俺に殺されたいのか？この俺様に…」

沙羅「ち、違うの…ただ、アナタはどうして、こんなゲームをしようとしたの？」

彼女は、男の動機を探ろうとする。

闇の中で…

主催者「どうでもいい」

彼は、それしか言わなかった。

主催者「フン。ゲームはまだだ。コイツは…お前の父親は生きている」

「お前を探すために…沙羅」

彼は黒い微笑みを浮かび、沙羅に言った。

男は、ベットから降り…“現実の世界”に行く。

主催者「甘いんだよ！！何もかもが」

彼は大声を立て、普通に笑っている人々を見て…憎らしい眼で見ている。

主催者「幸せ…それだけで生きていけると思っな」

「俺は…この世界を消す」

「ゲームのために…」

彼の怒りは収まらない。

暴言を吐き、隠していた野望をひそかに言った。 自分の小さな手を見ながら…

沙羅「アナタはそれでいいの…？ゲームなんて…」

主催者「全員の命を消すのと…一人を消すのじゃ…どちらが思いの
だろうか…」

笑いながら、沙羅に言う。

彼は手から蒼い炎を灯す。

そして…沙羅に思い知らす。

“ 父親は…愚かなのだと。
”

沙羅「不老不死のアナタは…パパを…パパに対して、憎しみがあつたのね？悠斗」

沙羅はやっと、理解した。

主催者の名前は、悠斗。

そして…確信した沙羅は…

沙羅「だから、パパを…」

悠斗「黙れ!!!」

「俺に逆らうなよ……」

「まあいい、俺がアイツを成敗する。」

もう悠斗は琉球に対しての憎しみの塊でしかなかった。

悠斗「オレは…」

「オレは…捨てられたんだ、雨の日に…ずぶ濡れになって…」
「捨てられたんだ!」

ゴフツ…血を嘔く悠斗。

…彼はトリップで、沙羅の父が必死で娘を探している所をケタケタと笑いながら、観ていた。

そして、やっと…真実がわかった。

悠斗は琉球の息子だったのだ。

そして…琉球は、何かの理由で…悠斗を捨てた。

その理由はまだ解らない。

？「大丈夫ですか？ダンナ様…」

突然、セバスが現れた。

セバスは…悠斗のそばにより、背中をさすり、調子を伺う。

沙羅「お兄ちゃん…」

沙羅は悠斗を心配していた。

悠斗「兄ちゃん？ふざけるな」

「お前はいいよな？」

「なんの苦労もなく、ただ幸せしか与えられなかったお前に…」

悠斗は沙羅の服に手を掛ける。

沙羅「やめてっ！」

悠斗は、沙羅に向かって…着ていた服を破った。

悠斗「俺の苦しみを思い知れ」

沙羅「きゃー！」

目の前に状況に怯える沙羅。まだ子供なのに…

悠斗「許せない、俺は…あの男を殺す。俺は…」

ゴフツ……と、不老不死の影響か、彼はまた血を噴き…ベットに寝転ぶ。

悠斗「不老不死にしたアイツに死の裁きを…」

「そして…沙羅。もう、お前は不良品だ」

沙羅「えっ……」

悠斗「妹なんて、要らないんだ」

彼は、沙羅を消した。

‘沙羅の存在’を……

『ある魔力で……』

悠斗「さあ…ゲームの始まりだ。」

嘲笑う、彼は嘲笑った。

醜い現実を消すために…そして、琉球を殺すため…彼は向かった。

父のところへ…

□
□
□

沙羅は、赤いバラの花びらが舞い落ちている所で…寝ていた。

沙羅「パパ…私は無力でしたか？」

そう呟き、静かに引き取ったのだった。

□
□
□

？「はあ……はあ……—ら、さら、沙羅！—！」

大量に汗をかき、一人しかない世界で、娘を探している俺。

勿論、娘が死んだことは、知らない。

俺（「やっと…解ったんだ。早く、沙羅を探さないと…」）

悠斗「自分が捨てられたら、お前はそうなるんだな？馬鹿が……」

俺「えっ……」

俺は…振り返る。

その時—

悠斗「ゲームは始まった。琉球。俺とのゲームが……」

俺「……お前が黒幕か？」

「沙羅を何処へやったんだ?!」

目の前に居るのが、実の息子だと気づかず……俺は男に聞いた。

そう……ゲームは、まだ始まったばかり……

悠斗は、微かな声で言った。

悠斗「殺し合いのゲーム」

「お前は……この世界からは、出られない」

と……

時計の針が天へと、差していた。

（後書き）

急展開過ぎて申し訳ありません。

最終回の気分で書かせていただきました。

次を書いてくださる方、よろしく願いします。 > m (——) m <

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2165s/>

そして人はいなくなっちゃいました（その17）

2011年10月6日10時54分発行